

文化芸術の振興に関する
アンケート調査
取りまとめ結果

(令和5年12月 千葉県文化振興課)

目次

項目名	頁数
調査概要	3
1.会員数及び平均年齢	6
2.成果の発表会や展示会等の実施頻度	7
3.会員以外の方の参加（観覧、聴講）の受付有無	8
4.会員以外の方の参加（観覧、聴講）費用	9
5.障害のある方が行きやすい工夫の有無	10
6.障害のある方の参加希望の有無	11
7.未活動者や未加入者向けのP R活動の実施状況	12
8.P R活動の方法（複数回答）	13
9.専用ホームページの有無	14
10.「ちば文化交流ボックス」の利用経験	15
11.後継者育成のための事業や活動の有無	16
12.他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無	17

目次

項目名	頁数
13.事業や活動を行う際に課題に感じること（複数回答）	18
14.団体が今後担っていききたい役割（複数回答）	19
15.団体が今後担っていききたい役割に関する課題や悩み事（自由回答）	20
16.「ちば文化」でイメージするもの（自由回答）	21
17.新型コロナウイルス感染症拡大時を経た団体の事業や活動の変化の有無	24
18.具体的な変化（自由回答）	25
19.振興のために県が担う役割（複数回答）	28
20.県が取り組む文化施策等に対する意見等（自由回答）	29

調査概要

◆調査の目的

次期「千葉県文化芸術推進基本計画」の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とするため

◆依頼先

千葉県芸術文化団体協議会加盟団体及び千葉県美術会、千葉県博物館協会、千葉県文化財保護協会の計59団体に対し調査を依頼

◆回答数 43団体

◆回答率 72.9%

◆調査時期 令和5年10月27日～令和5年11月30日

調査概要

◆調査項目

問1 団体の会員数	問12 「ちば文化交流ボックス」の利用経験
問2 会員の平均年齢	問13 後継者育成のための事業や活動の有無
問3 成果の発表会や展示会等の実施頻度	問14 他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無
問4 会員以外の方の参加（観覧、聴講）の受付有無	問15 事業や活動を行う際に課題に感じる事（複数回答）
問5 会員以外の方の参加（観覧、聴講）費用	問16 団体が今後担っていききたい役割
問6 障害のある方が行きやすい工夫の有無	問17 団体が今後担っていききたい役割に関する課題や悩み事（自由回答）
問7 具体的な工夫内容	問18 「ちば文化」でイメージするもの（自由回答）
問8 障害のある方の参加希望の有無	問19 新型コロナウイルス感染症の感染拡大時（いわゆる「コロナ禍」）と現在とを比べて、団体の事業や活動の変化の有無
問9 未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況	問20 具体的な変化（自由回答）
問10 PR活動の方法	問21 振興のために県が担う役割
問11 専用ホームページの有無	問22 県が取り組む文化施策等に対する意見等（自由回答）

調査概要

◆調査結果の見方

調査結果を読む際に、次の点に留意すること。

1. 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が**100%**にならないことがある。
2. 基数となるべき実数は n として掲載した。その比率は n の件数を**100%**として算出した。
3. 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が**100%**を上回ることがある。
4. 複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。

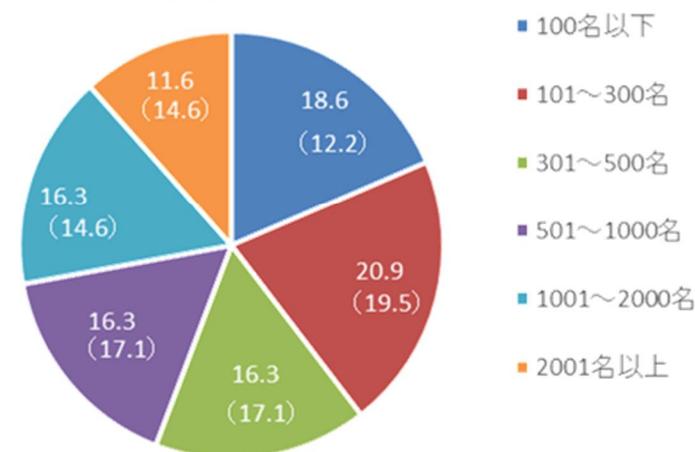
1. 会員数及び平均年齢

団体の令和5年10月1日現在の会員数は、最小が45名で、最大が16000名となり、各事業所によってばらつきがみられます。割合としては「101～300名」が20.9%と最も高く、次いで「100名以下」18.6%、「301～500名」「501～1000名」「1001～2000名」が16.3%、「2001名以上」が11.6%でした。

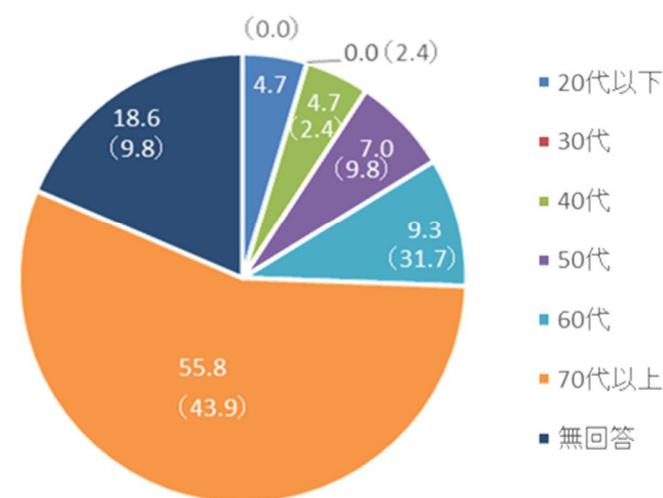
また、平均年齢は「70代以上」が55.8%で最も高く、次いで「60代」9.3%、「50代」7.0%と続き、「20代以下」「40代」が4.7%、「30代」は0%でした。

「無回答」は18.6%でした。

全体(n=43) 会員数



全体(n=43) 平均年齢



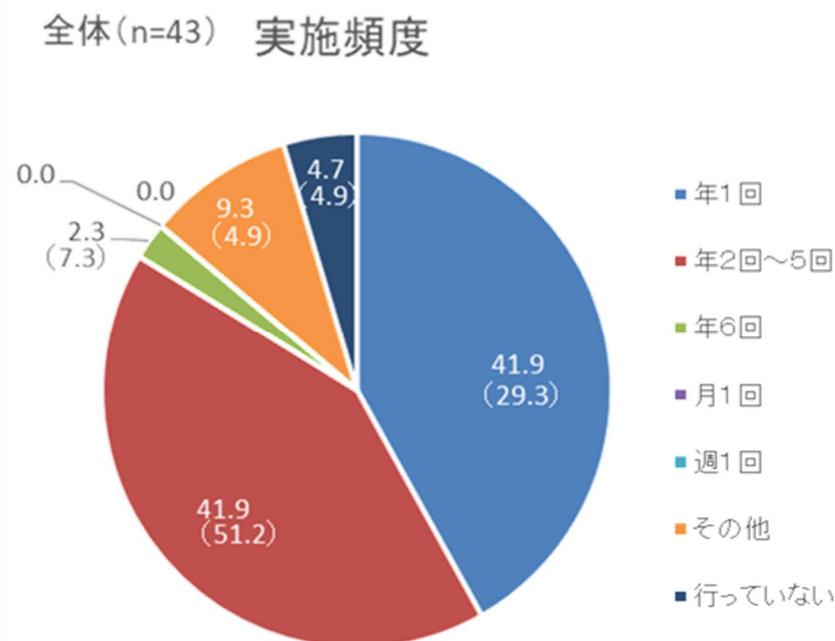
注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

2.成果の発表会や展示会等の実施頻度

団体として行う成果の発表会や展示会等の実施頻度について、「年1回」「年2回～5回」が41.9%と一番高く、次いで「その他」9.3%、「ほぼ全利用者」20.5%、「年6回」2.3%と続き、「月1回」「週1回」は0%でした。

なお、「行っていない」は4.7%でした。

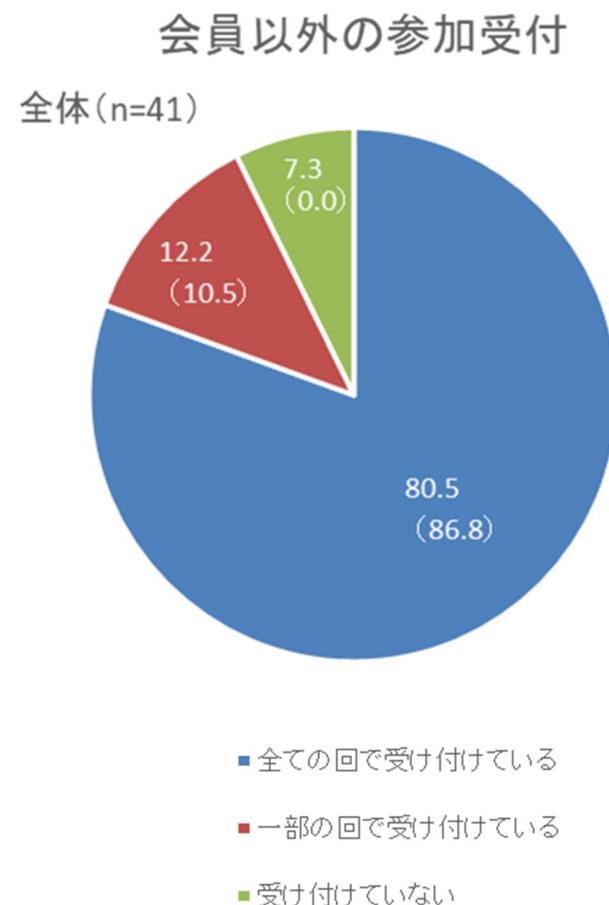
「その他」については、年間7～15回の範囲で開催しているとの回答がありました。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n=41

3. 会員以外の方の参加（観覧、聴講）の受付有無

「成果の発表会や展示会等を実施している団体」41団体を対象に、会員以外の方の参加（観覧、聴講）の受付有無を聞いたところ、「全ての回で受け付けている」が80.5%と一番高く、次いで「一部の回で受け付けている」12.2%、「受け付けていない」が7.3%でした。



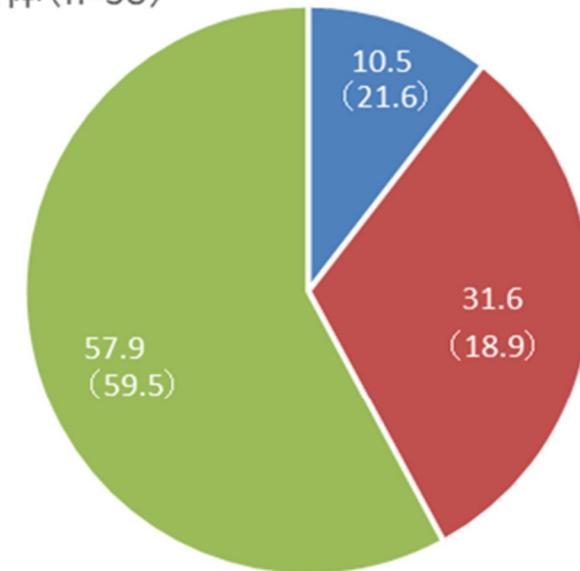
注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 38

4. 会員以外の方の参加（観覧、聴講）費用

「成果の発表会や展示会等に会員以外の方の参加（観覧、聴講）を受け付けている団体」38団体を対象に、有償か無償かを聞いたところ、「全て無償」が57.9%と一番高く、次いで「有償の回と無償の回がある」31.6%、「全て有償」10.5%でした。

会員以外の方の参加費用

全体(n=38)



■ 全て有償

■ 有償の回と無償の回がある

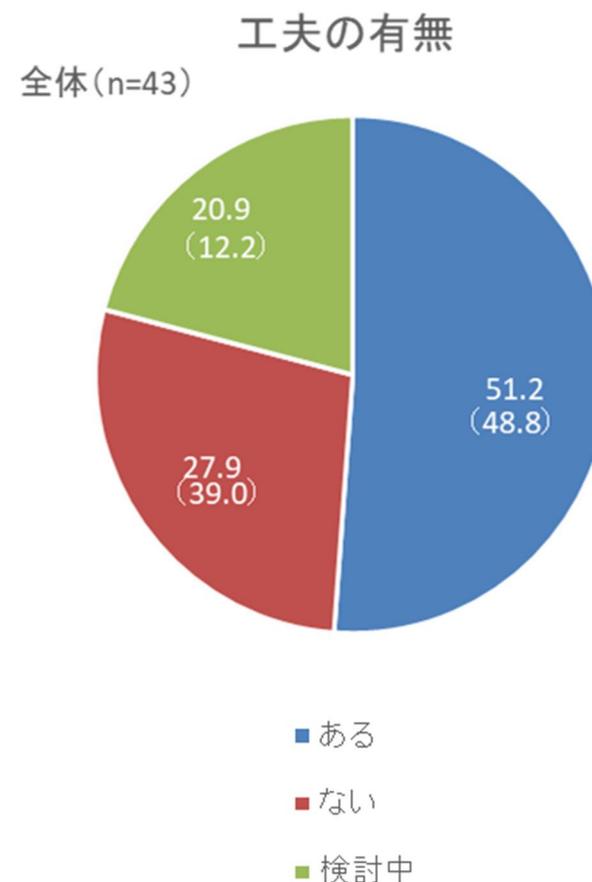
■ 全て無償

注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 37

5.障害のある方が行きやすい工夫の有無

障害のある方が行きやすい工夫の有無を聞いたところ、「ある」が**51.2%**と一番高く、次いで「ない」**27.9%**、「検討中」**20.9%**と続きました。

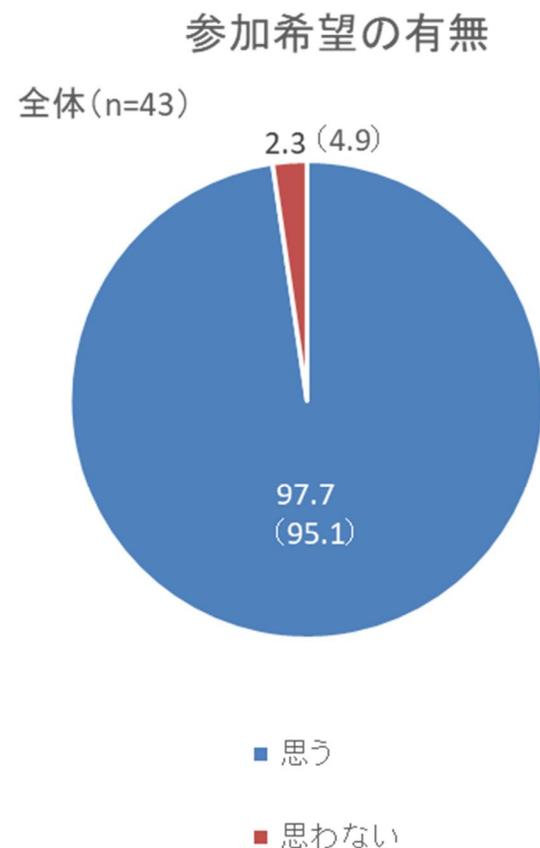
なお、工夫内容については、発表会や展示会の際に「バリアフリー化された施設で行うようにしている」、「車いすの貸し出しを行っている」、「手話通訳の手配」、「ボランティアセンターと連携して対応している」等の回答がありました。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

6.障害のある方の参加希望の有無

障害のある方に参加してもらいたいかを聞いたところ、「思う」が97.7%、「思わない」が2.3%でした。

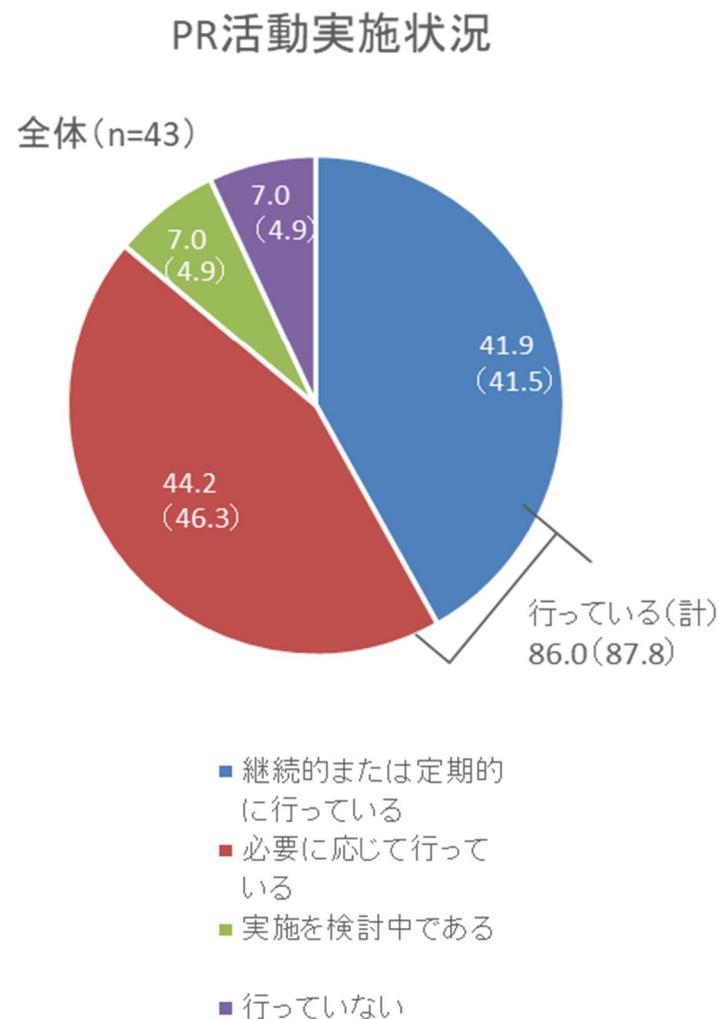


注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

7.未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況

未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況を聞いたところ、「必要に応じて行っている」が**44.2%**と最も高く、次いで「継続的または定期的に行っている」**41.9%**「実施を検討中である」「行っていない」が**7.0%**でした。

また、「継続的または定期的に行っている」と「必要に応じて行っている」を合わせた「行っている（計）」は**86.0%**でした。

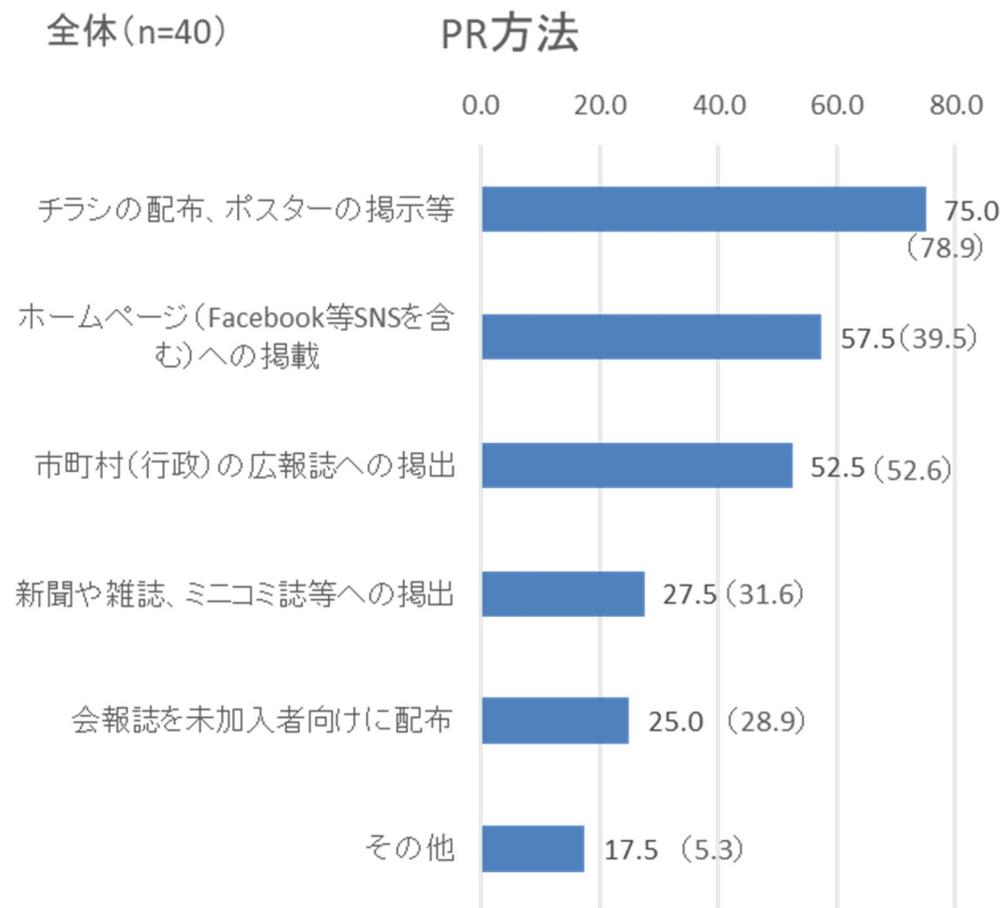


注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

8. P R 活動の方法（複数回答）

「P R 活動を行っている」とした40団体を対象に、活動方法を聞いたところ、「チラシの配布、ポスターの掲示等」が75.0%と最も高く、次いで「ホームページ（Facebook等SNSを含む）への掲載」57.5%、「市町村（行政）の広報誌への掲出」52.5%、「新聞や雑誌、ミニコミ誌等への掲出」27.5%、「会報誌を未加入者向けに配布」25.0%、「その他」が17.5%でした。

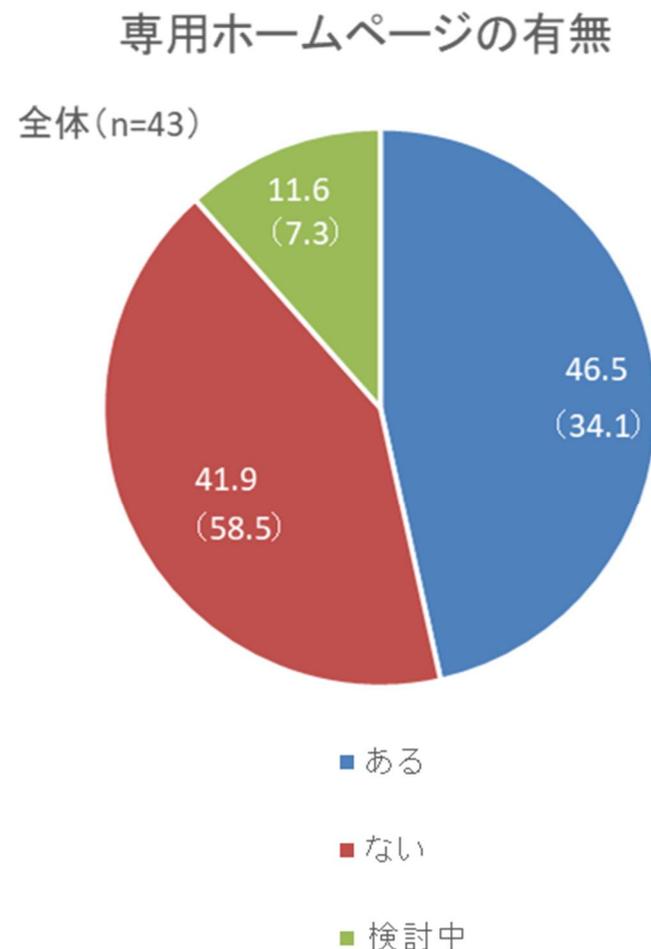
なお、「その他」については「活動場所となるような施設に機関誌を配架」がありました。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 38

9.専用ホームページの有無

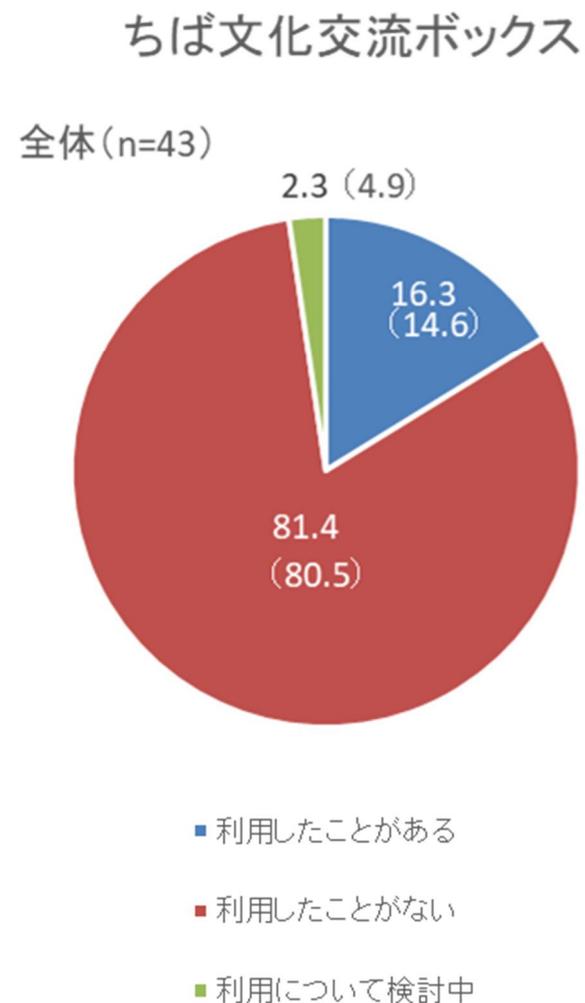
団体専用のホームページ（Facebook等SNSを含む）の有無を聞いたところ、「ある」が46.5%と最も高く、次いで「ない」41.9%、「検討中」が11.6%と続きました。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

10. 「ちば文化交流ボックス」の利用経験

「ちば文化交流ボックス」の利用経験を聞いたところ、「利用したことがない」が**81.4%**と最も高く、次いで「利用したことがある」**16.3%**、「利用について検討中」が**2.3%**と続きました。

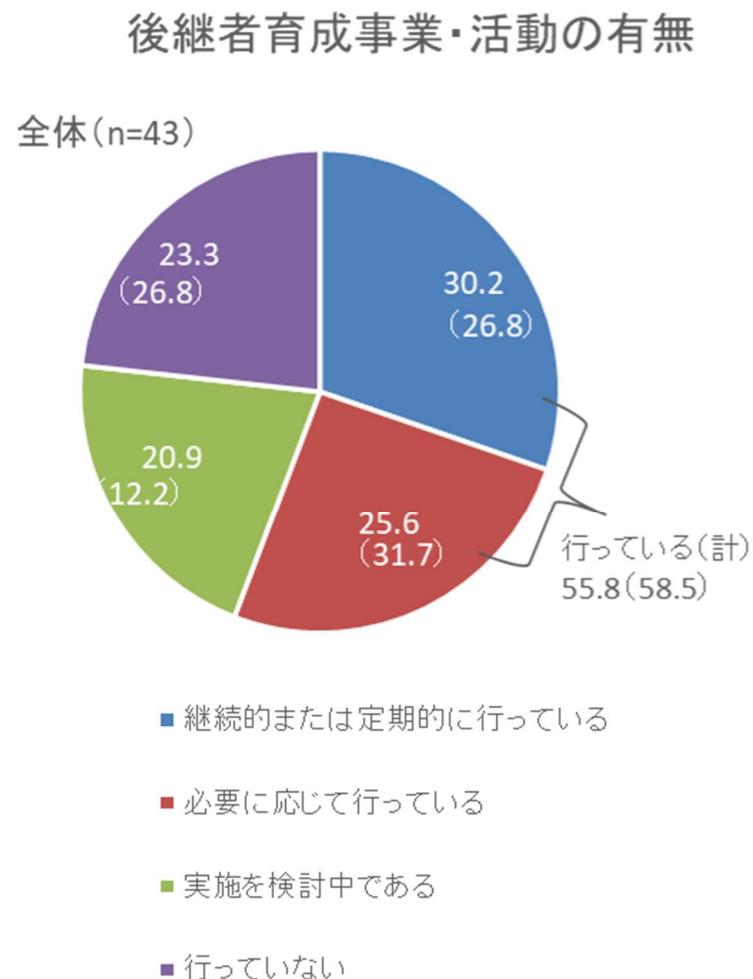


注： () の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

11.後継者育成のための事業や活動の有無

後継者育成のための事業や活動の有無を聞いたところ、「継続的または定期的に行っている」が30.2%と最も高く、次いで「必要に応じて行っている」25.6%、「行っていない」23.3%、「実施を検討中である」が20.9%と続きました。

また、「継続的または定期的に行っている」と「必要に応じて行っている」を合わせた「行っている（計）」は55.8%でした。

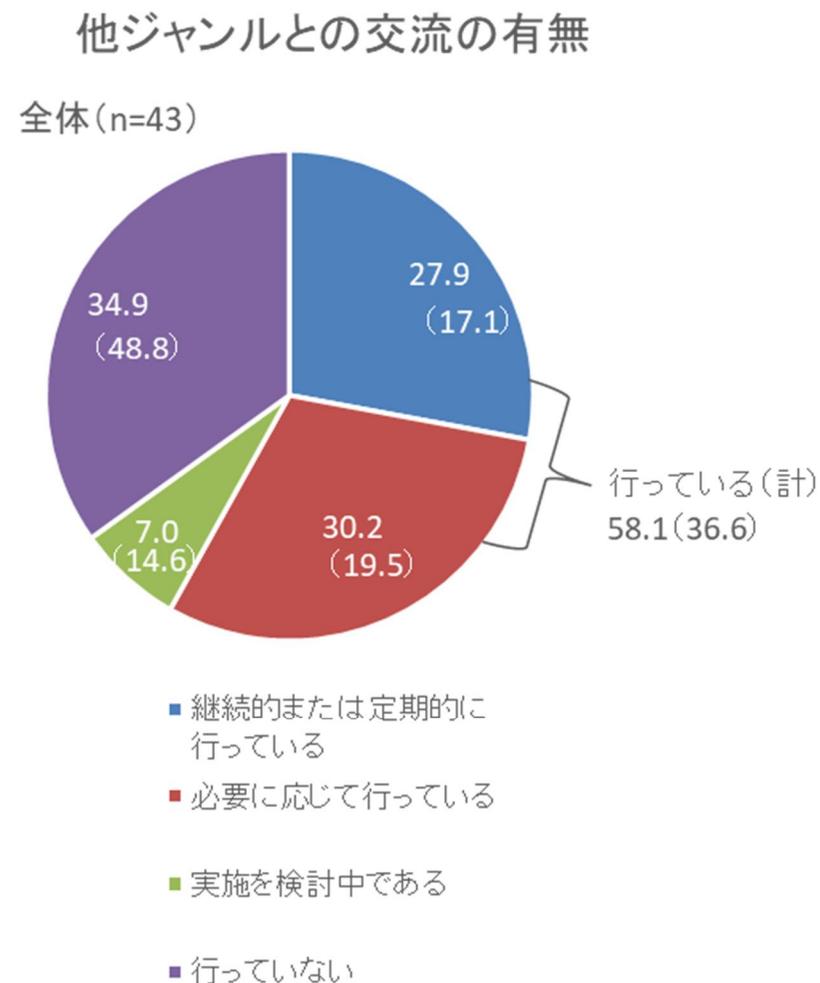


注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

12.他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無

他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無を聞いたところ、「行っていない」が34.9%と最も高く、次いで「必要に応じて行っている」30.2%、「継続的または定期的に行っている」27.9%、「実施を検討中である」が7.0%と続きました。

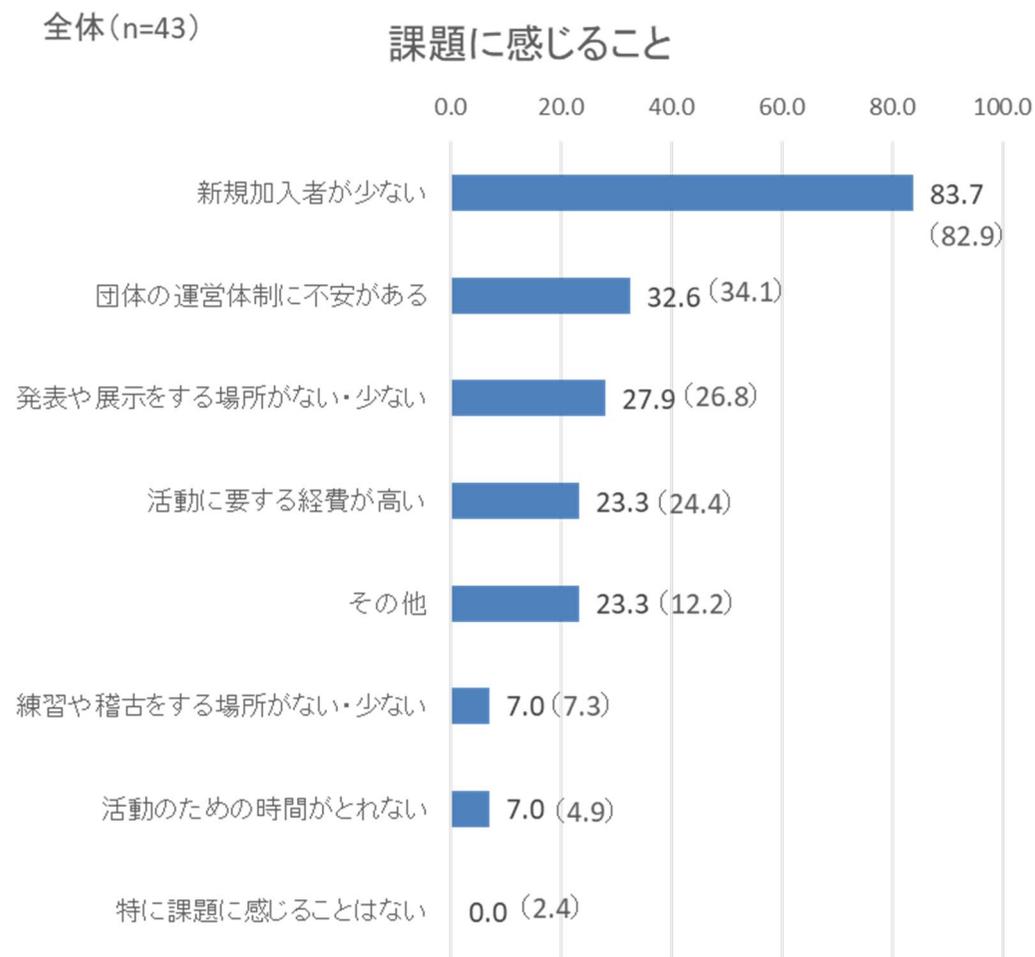
また、「継続的または定期的に行っている」と「必要に応じて行っている」を合わせた「行っている（計）」は58.1%でした。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

13. 事業や活動を行う際に課題に感じること（複数回答）

事業や活動を行う際に課題に感じることを聞いたところ、「新規加入者が少ない」が**83.7%**と最も高く、次いで「団体の運営体制に不安がある」**32.6%**、「発表や展示をする場所がない・少ない」**27.9%**が続き、「活動に要する経費が高い」「その他」が**23.3%**、「練習や稽古をする場所がない・少ない」「活動のための時間がとれない」が**7.0%**でした。

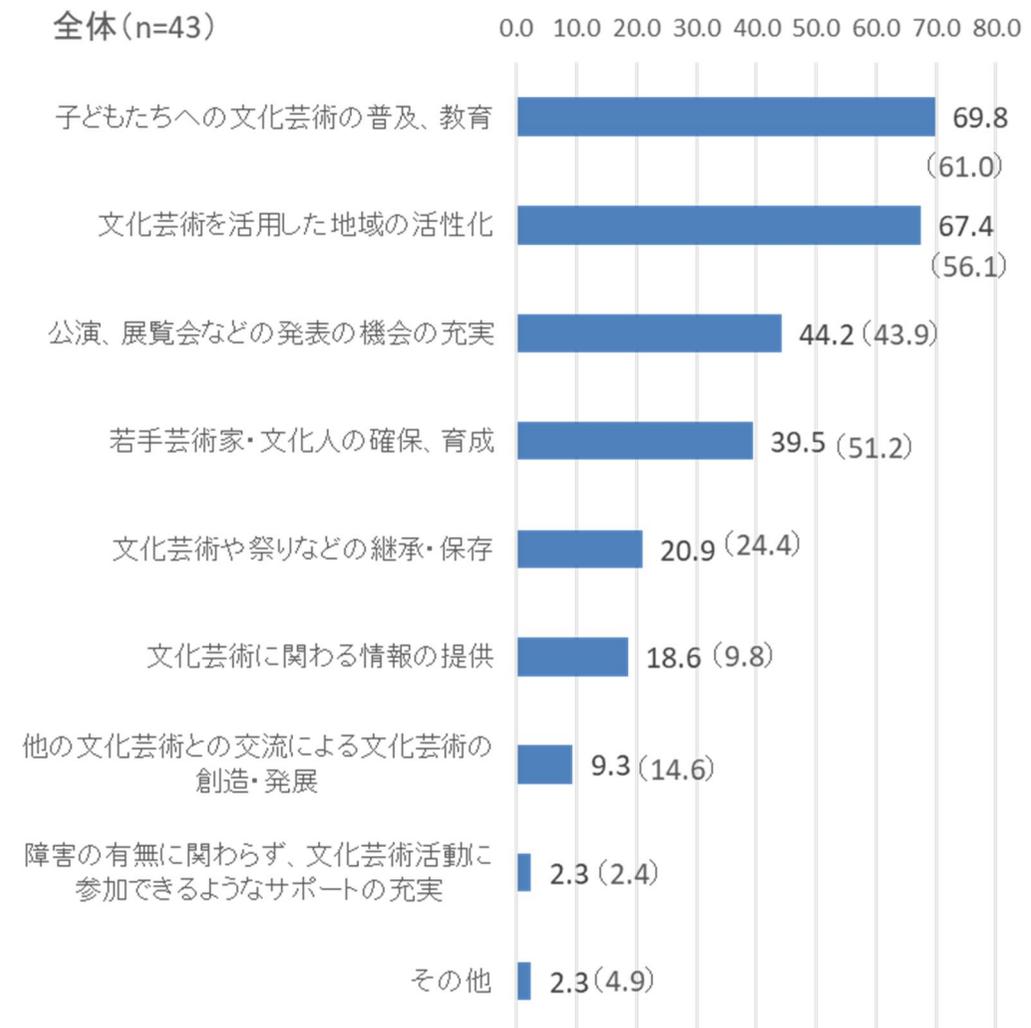


注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

14. 団体が今後担っていききたい役割（複数回答）

団体が今後担っていききたい役割を聞いたところ、「子どもたちへの文化芸術の普及、教育」が**69.8%**と最も高く、次いで「文化芸術を活用した地域の活性化」**67.4%**、「公演、展覧会などの発表の機会の充実」**44.2%**、「若手芸術家・文化人の確保、育成」**39.5%**、「文化芸術や祭りなどの継承・保存」**20.9%**、「文化芸術に関わる情報の提供」**18.6%**、「他の文化芸術との交流による文化芸術の創造・発展」**9.3%**が続き、「障害の有無に関わらず、文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実」「その他」が**2.3%**でした。

なお、「その他」の回答内容は、「団体としての活動を継続していくこと」でした。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

15. 団体が今後担っていききたい役割に関する課題や悩み事 (自由回答)

団体が今後担っていききたい役割に関する課題や悩み事を聞いたところ、以下のような回答がありました。

(重複した内容や、個人を特定できる記載については省略しています)

- 会員の高齢化、若手後継者不足
- 会員の減少、役員のみなり手の減少
- 会員の減少に伴う財政問題（運営費収入の減少、支出負担増）
- 後継者の育成、若手の加入や世代交代などが大きな課題
- 本部と支部の交流不足
- 発表会や展覧会等の会場の確保（開催の2年前には確保しなければならないが、制度が無い）
- 部活動の地域移行、外部指導員への委託などによる、いかに部活動の衰退を防ぎ、質の高い活動を守るか。
- 団体内に専門知識のある有識者が少なく、行政との繋がりや多職種との繋がりが持ちにくい。
- 市内にて活動している団体やサークルを文化協会へ誘導できるよう当協会の熟成が必要
- コロナ禍で停滞した文化芸術活動をいかに活性化させるか
- PR活動の予定、理解者、支援者を増やすこと

16. 「ちば文化」でイメージするもの（自由回答）

「ちば文化」（千葉県固有の文化、千葉県らしさ）でイメージするものを聞いたところ、以下のような回答がありました。

（重複した内容や、個人を特定できる記載については省略しています）

（自然に関するもの）

- 自然と都市部のコラボレーション
- 首都圏域で自然や伝統を大事にした豊かな文化
- 里山のイメージ、自然
- 温暖な気候、高い山がない、色々な顔を持つ
- 千葉は潮の息吹や里山の自然、アクアラインを渡れば55分で首都東京という素晴らしいロケーション、文化も豊かに育まれていると思う
- 千葉県は温暖な気候、豊かな自然に育まれた素晴らしい環境がある。それをバックボーンに多くの芸術、文化、芸能があり、それを担う芸術家・文化人・芸能家がいる。それを発掘し、育てて千葉県より全国に発信できたら良いと考えており活動している。
- 三方を海に囲まれた立地・環境を根底に、それより派生する特異な文化・文化財の存在。
- 美しい海と海辺に咲く花
- 青い海、温暖な気候
- 豊富な海の幸や山の幸
- 千葉県の地形と海、みどり
- 太平洋、東京湾の海岸線が長く、利根川や江戸川などの河川もあり、いろんな文化が育まれてきた。

16. 「ちば文化」でイメージするもの（自由回答）

（食文化に関するもの）

- 巻きずし、なめろう、海の幸（魚介類、のり）、梨、落花生、醤油
- ちば文化のイメージは、地域ごとの食文化や伝統行事はとても見どころ満載だと思う。

（伝統・文化財に関するもの）

- 祭り（佐原、大原など）
- 地域の小さな伝統行事が、次第に失われつつある。あまり取り上げられない小さな伝統行事、この小さなものが、文化なのではと思うことがある。
- 全国的にも有名な貝塚・古墳（社会科学習に関する全国からの集客）
- 「九十九里大漁木遣り唄」などは千葉県固有の文化だと思う。
- 日蓮宗最古・最大・最高の学問所だった飯高檀林をもっと広くアピールし、講堂裏の「ぼたん園」などの整備をする。教育の原点を見学するに相応しい環境整備。

（地域に関するもの）

- 都市に近い文化の発展した地域である。気候も比較的安定した住みやすい場所である。作物では米や落花生、醤油の醸造と豊かなイメージをもつ。
- 千葉県とは言え、範囲が広すぎて交流がなかなか難しいところ
- 地域格差が大きすぎる。そして、その地域が他地域との交流をなかなか持つことが出来ずにちばとしての文化は地域によってさまざまな文化を持ち合わせると考える。ちばと一括りにするのは難しいと考える。
- 千葉の伝説や地域の歴史を生かしたもの

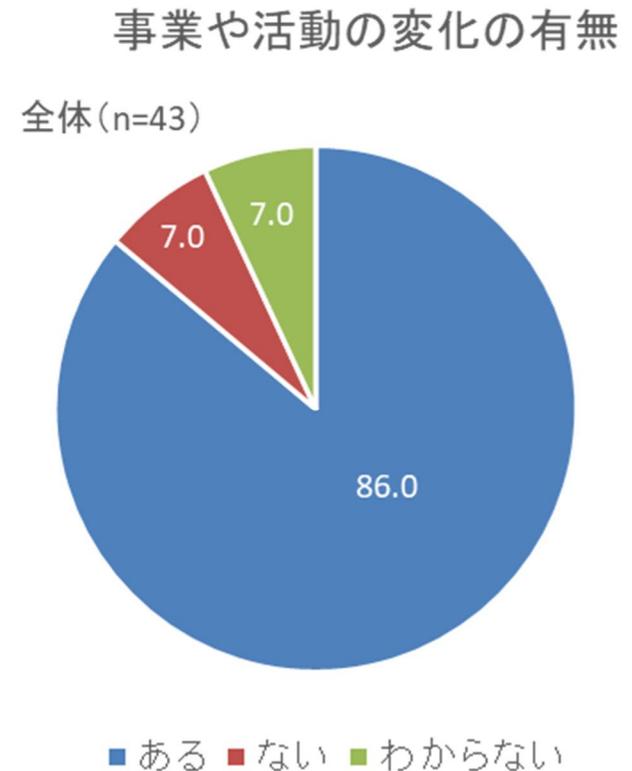
16. 「ちば文化」でイメージするもの（自由回答）

（その他）

- 千葉市市場町の県民文化会館正面入口前に千葉三大歌人（伊藤左千夫、古泉千櫨、吉植庄亮）の歌碑があります。千葉県が日本に誇れる三大歌人の継承・発展をもっと前面に押し出すべきと思います。
- 東京に近い環境で、ディズニーランド、成田空港があり、成田山新勝寺等にはたくさんの訪問客がある。また、サッカーチームやプロ野球球場等があり、スポーツが盛んな県でもある。鎌ヶ谷市には日本ハム2軍球場がある。ここから、大リーグで活躍中のダルビッシュ選手や大谷選手も旅立った。各地には大多喜城や関宿城などの城跡や古墳がたくさんあり、佐倉の国立歴史民俗博物館もあり、歴史文化の見どころが沢山ある魅力ある県です。
- 全国的にも有名な植木の町「匝瑳市」の広報。「盆栽」については外国人の興味を引く美学でもある。
- 成田国際空港、東京湾アクアライン
- 学校での部活動の成果による、全国的にハイレベルな芸術分野での活動
- 特に思いつかないが、多様性も一つの特徴だと思います

17. 新型コロナウイルス感染症拡大時を経た団体の事業や活動の変化の有無

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時（いわゆる「コロナ禍」）と現在とを比べて、団体の事業や活動の変化の有無を聞いたところ、「ある」が86.0%、「ない」「わからない」が7.0%でした。



18.具体的な変化（自由回答）

コロナ禍を経て団体の事業や活動に変化があった37団体に対し、具体的な内容を聞いたところ、以下のような回答がありました。

（重複した内容や、個人を特定できる記載については省略しています）

（活動の中止・解散に関するもの）

- 構成団体の解散及び会員の減少
- ある同好会では高齢化とともにコロナの影響で解散することになった。当文化協会の事業においても、活動を取りやめたものがある。いつ元に戻るか現在検討中である。
- 主にコロナ禍によるが、高齢化に伴い人数の減少により活動中止
- コロナ禍の期間中、大会や対面会合の中止。小中高生への働きかけの弱まり等々があり、会員の高齢化と減少等多くの面で影響が出た。
- 活動の場が減り、会員自身も活動休止せざる得ない状況。
- 祭りなどの行事が中止されたり屋外での活動が制限されたりしたため、撮影機会の減少や意欲の減退が発生し写真展への応募数が大きく減少した。
- 公演計画が中止され、練習成果を披露する機会を失った
- コロナ禍による発表会の中止等で各団体が活動できず、退会団体が増加した
- 会員数の減少幅が大きくなり、運営が厳しくなった

18.具体的な変化（自由回答）

（活動の再開に関するもの）

- 毎年行っている定期演奏会や研修会の再開、練習会場での参加人数制限の緩和。
- コロナ禍の期間は、講演会などの事業を規模縮小・中止していたが、現在はほぼコロナ禍以前のような形で事業を実施できるようになった。
- 感染拡大時には展覧会を中止。その後は感染状況を見ながら規模を縮小したり感染予防対策を講じつつ展覧会を開催したが、観覧者・出品者は減少。
2023年は可能な限りコロナ前に戻して開催。昨年より観覧者が増加した。
- 総会や発表会ができるようになった
- 感染症の扱いが5類に移行されたことにより、通常開催で事業を計画、実施している。
- コロナ禍において自粛していた活動が少しずつ再開している。
- 中止や縮小をしていた事業が、ほぼコロナ前の形で実施できるようになっている（有観客、リハーサル、更衣など）
- 会報での紙上開催となっていた総会や研究会が、対面で行えるようになった。また短い時間で切り上げていた事業も以前のように行えるようになった。
- 感染拡大時には退会者が続出したが、ここへきて活動も元に戻り退会も止んできた。

18.具体的な変化（自由回答）

（活動の規模に関するもの）

- コロナ後、参加者は回復傾向にあるが、コロナ以前にまでは戻らない。
- 活動の規模が小さくなり、コロナ後も回復しない。

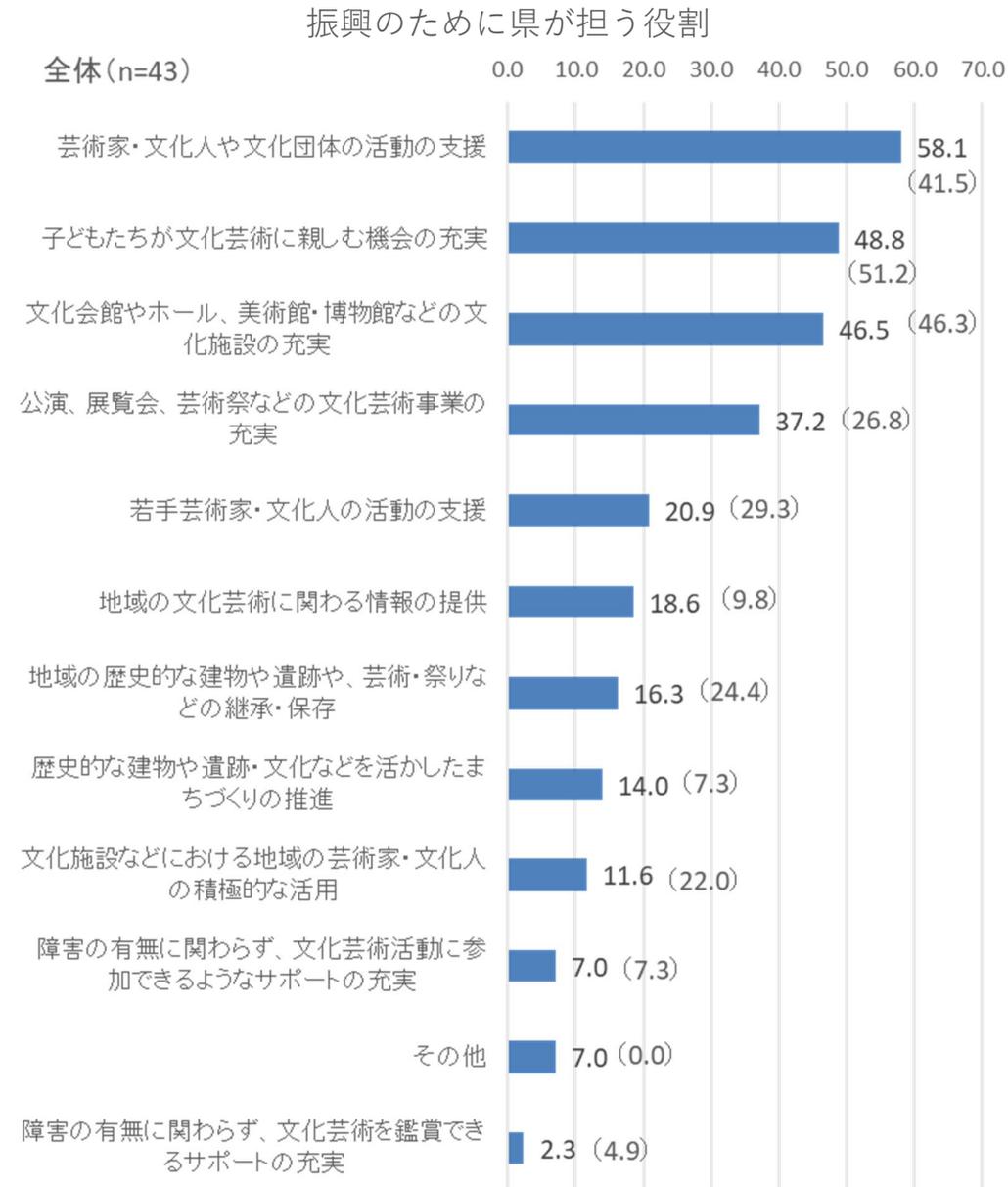
（活動方法に関するもの）

- 講演会等のオンラインの導入
- オンラインの活用で新たなイベントや参加者の拡大
- オンライン会議やハイブリット会議の日常化
- ボランティアの安全への配慮、管理
- 各施設での一般向けイベントの内容変更や人数制限
- ハンズオン展示の撤去や一部中止（現在は再開）

19. 振興のために県が担う役割（複数回答）

千葉県文化芸術を振興するために、県が担う役割を聞いたところ、「芸術家・文化人や文化団体の活動の支援」が**58.1%**と最も高く、次いで「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」**48.8%**、「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」**46.5%**、「公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業の充実」**37.2%**、「若手芸術家・文化人の活動の支援」**20.9%**、「地域の文化芸術に関わる情報の提供」**18.6%**、「地域の歴史的な建物や遺跡や、芸術・祭りなどの継承・保存」**16.3%**、「歴史的な建物や遺跡・文化などを活かしたまちづくりの推進」**14.0%**、「文化施設などにおける地域の芸術家・文化人の積極的な活用」**11.6%**と続き、「障害の有無に関わらず、文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実」「その他」が**7.0%**、「障害の有無に関わらず、文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」が**2.3%**でした。

また、「その他」は「会員の減少と高齢化を克服した団体の事例を紹介してもらいたい」「後継者育成活動に市と一体となって取り組むこと」等でした。



注：（）の数字は前回調査時（令和元年度）の同様の項目による調査結果 n = 41

20. 県が取り組む文化施策等に対する意見等（自由回答）

県が取り組む文化施策等に対する意見等については自由回答としており、以下のような御意見がありました。

（重複した内容や、個人を特定できる記載については省略しています）

（事業全般）

- 個別の芸文協団体に比べ、県という、広い範囲で、かつ規模の大きく企画が可能であるため、この点をフルに活用して、多くの人に参加できるイベント等の企画検討をいただければ幸いです。
- 国の教育そのものに総合的に考えた文化芸術家の育成を行っていないこと根本的な問題があるのだから、せめて、ちばモデルとして、専門知識のある人材の起用をお願いしたい。公共イベントにおける担当の知識のなさ、さらには異動により関係の再構築など、積み重ねていかなければならない分野にはふさわしくない、最初からやり直しという現状の打破、適材適所の人選をお願いしたい。中身あるシステム、環境作りをお願いしたい。
- 伝統芸能にだけ力を入れず、時代に合った新しい芸にも取り組み、または支援の目を向けることも大切と思う
- 芸術、音楽等の文化事業を発展させる施策を講じて千葉県民全体の文化教養を高める、国際文化交流、地域文化交流等

20. 県が取り組む文化施策等に対する意見等（自由回答）

（子ども・若者に関すること）

- 次世代を対象にした文化教室の運営に対して、練習会場確保、参加者募集、発表会場の確保に協力して欲しい。
- 若い世代が千葉県のプロモーションをSNS等で発信することで、文化施策の取り組みを知り得ることができ、世代間交流に一役を担うと思われます。
- 文化芸術は生きる力になります。乳幼児からすべての子供への文化施策の充実を希望します。
- 青少年に文化教養を高めるため、定期的な伝統文化公演の鑑賞機会を教育の一環として取り入れる
- 後継者育成活動への取組及び支援

（県立文化施設に関すること）

- 美術館における展覧会の機会を増やしていただきたい。博物館でも。
- 県立美術館へのアクセスを充実してほしい（最寄りの駅からシャトルバスの運行など）。また、駐車場を広げてほしい。ハイキングや料理大会があったらうれしい。
- 文化施設の料金の見直し。料金の半額ほどを免除してもらいたい

20. 県が取り組む文化施策等に対する意見等（自由回答）

（補助・助成関すること）

- 補助金の増額、後援者による支援
- 文化団体への助成金をもっと増やしてもらえるような、芸術文化活動に対する積極的な支援の必要性認識の醸成を県全体で行っていただくよう、お願いしたいと思います。
- 事業遂行のための、会場費借用の補助をお願いしたい
- 千葉県が日本に誇れる三大歌人の継承と発展を目指して昭和4年以來活動を続けている「千葉歌人クラブ」への物心両面にわたる具体的な支援、援助を切望します。

（その他）

- 以前からの取り組みもありますが、いかに文化芸術活動を体系的に記録し、保存していくか。
- それを誰が保存し、どこへ保管し、継承していくか。
- 市民が芸術を通じて元気で明るい生活ができることを望みます